

事例集の利用について

現在、鑑賞学習は学校での授業の他、美術館やNPOなどとの連携による取り組みが広がっています。

また、実際には図工・美術の授業時間で、担当教員が実施するケースも多いことと思います。

この事例集では、学級担任、教科担任が通常の授業で鑑賞授業を行う場合のプログラムをとりあげました。

学校での鑑賞学習については、学習指導要領に各校種、学年の発達段階に応じた目標・内容が示されています。

今回提案する事例も、この点を考慮し、以下の鑑賞授業プログラムにおける小・中・高のつながりを作成し、これにそった構成となっています。

プログラムの活用にあたっては、

本プログラムでの授業

- ・複製画（『ジヴェルニーの積みわら 夕日』モネ、『エラニーの牛を追う娘』ピサロ）
- ・付属の関連資料（授業用補助教材、パネル、ワークシート、他）

を使用して、そのまま実施できます。

構想を展開した授業

複製画を主教材として付属の関連資料、事例集から授業者が構想を展開、新たに資料を作成して授業を組み立てることもできます。

興味関心をのばす授業

事例は校種・学年をわけていますが、児童生徒の実態に応じて名画パズルなど小学校でも利用可能です。事例の学年枠にこだわらず、興味関心をのばす場面を授業提供することが考えられます。

鑑賞作品（モネ・ピサロ）をどの学年で扱うかについては、1年生で見せて、その子どもたちが3年生になって見せて、さらに6年生になって扱ってもよいかと思えます。

同じ作品を繰り返し鑑賞して、子ども自身の発達により、作品から新たな発見ができることと思えます。大人になってからのその作品との再会もいいものです。これは読書体験と同様です。

〈 鑑賞授業プログラムにおける小・中・高のつながり 〉

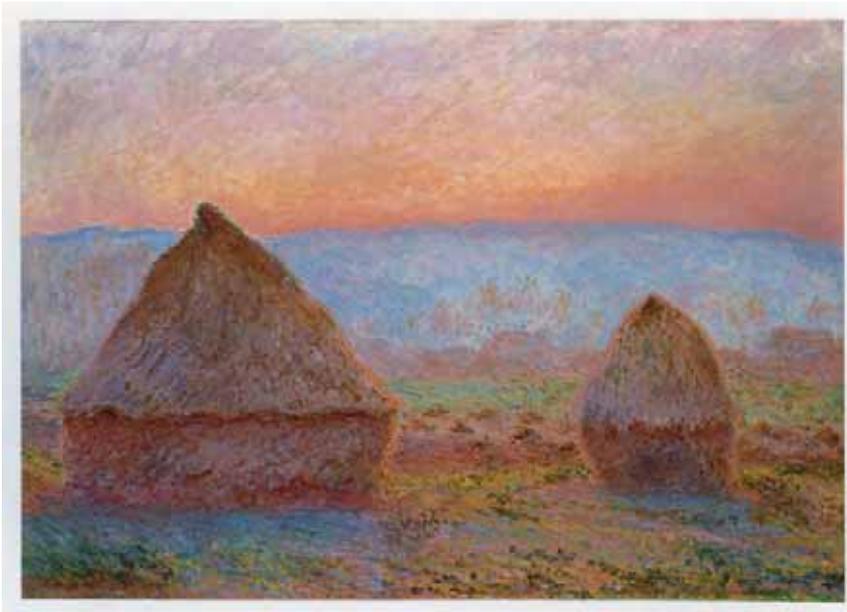
タイプ	ねらい	小学校			中学校	高等学校
		低学年	中学年	高学年		
作品を自由に見て楽しむプログラム 作品を創造的に解釈し、自らの価値観で見る楽しさを味わう	自らの気づき 作品からの読み取り	・見ることに興味を持てる ・作品のよさや美しさ、面白さなどを自分で感じ取ることができる			・作品のよさや美しさ、自分の見方や感じ方を広げることができる	・作品から得た情報を元に自分の見方や感じ方を広げ、他との関りの中で深めていくことができる
	内容	・何が～ ・季節は～ ・何がしたい～			・描かれた時間帯 ・どんな感じ	・第一印象からの展開と発展、自由な解釈と分析 ・自由な発想、分析から新たな解釈やストーリーを生み出す
印象派やその画家を楽しむプログラム 作品の知識や背景をもって作家や作品を理解する楽しさを味わう	作者について知る 印象派について知る	小学校低、中学年までは印象派にこだわらず、作品を見てたのしむことを主眼とする。			・表現の意図に気づき、作者の思いを考えながら関心をもって見ることができる	・印象派とその画家についての理解を深め、技法や色彩の特徴に気づくことができる
	内容				・フランスの画家 ・点描 ・並置混色 ・光の表現 ・連作 ・戸外写生 ・チューブ絵の具	・印象派の系譜 ・科学的色彩理論 ・日本の画家との比較や関連

対 象	小学校高学年	タイプ	準備 ジヴェルニの積みわら「夕日」レプリカ・関連作品 パネル・人物写真・ワークシート
タイトル	モネが追い求めたもの		
ねらい	モネの作品から表現の意図に気づき、作者の思いを考えながら 関心をもって見ることができる。		

1

さあ、絵をみよう

絵のまわりに集まってすわろう



・なにがかかわれているかな？
もっと近づいてみてごらん

・これは、かりとった麦でつくった積みわらです

- ・ 作品鑑賞に集中するため、題名・作者等の情報を与えず、よく見させます。聞かれてもあとで紹介すると伝えます。
- ・ なにか描かれているかの児童の発表は肯定的に受けとめます。

◆関心を持って見ている。
[鑑] 発言・観察

2

どんな人がかいたのかな

クイズです

Q1 どこの国の画家でしょう？



フランス

日本

アメリカ

[国はフランス、画家はモネ]

・クイズなので全員が参加できます。「積みわら」の作品にてらして、自分が予想した理由を発表するのも関心を高めます。

Q2 どの人でしょう？



モネ



藤田嗣治



リキテンシュタイン

・名前は伏せて、番号での表示とします。

◆意欲的に参加している。
[関] 観察

3

モネが追い求めたものは？

くらべてみよう



・この2つの作品からなにか気づきませんか？

・にているところ、ちがうところをみつけよう

ここでは十分に時間をとります。

まだまだあるぞ！

「モネは積わらの絵を25点もかいています」



なぜ、同じ場所をたくさんかいたのだろう



・自分の考えをワークシートにかこう

・連作を比較して見ることで、モネの制作意図-何を追い求めていたか-を探ります。

◆作品を比較しながら見ることができる。[鑑] 発言・観察

◆作者の意図について探ろうとしている。[鑑] 観察・ノート

モネが追い求めたもの - モネのこだわり



・モネは、光を追いかけていたのです。太陽の位置によって、同じものでも見え方がちがいますよね。それを描きたかったのです。しかも、光を表すのに適した表し方も発見していきました。

・この教会も、時刻をかえてかいています。
・モネのこだわりを考えてみましょう。

・パレットの上で色を混ぜると色が暗くなります。そこで、画面上で色を細くならべることで、光や明るい表現を工夫しました。

◆関心を持って見ることができる。[鑑] 発言・観察

対 象	小学校低学年（45分）	タイプ	準 備 「エラニーの牛を追う娘」 レプリカ・ペープサート・ カラーコピー
タイトル	絵のなかにおでかけしよう		
ね ら い	作品を見て、お話作りをすることで、作品に親しむ		

1

絵となかよくなるう

どんな絵かな、みんなで見てみよう



絵をかこんで座り
ましょう

- ・どんなけしきが見える？
(草、林、森、丘、山、土手)
- ・丘の向こうは何かな？
(川がある、公園がある、…)
- ・どんな風が吹いているかな？
- ・草にねころんだらどんな感じがするかな？
- ・何してるの？
(散歩、家に帰る、旅にでている、動物の世話をしている、…)

- ・絵には布をかけておき、少しずつ上にずらしていくと、子どもたちは動物や女の人をみつけながらつぶやきます。その言葉をきっかけに描かれたものをとらえていきます。
- ・だれが描いたのか、どこの国など質問が出たときは、終末で答えます。
- ・子どもが発言するときには、作品に近づいて、指でさしながら話をしてもらいます。
- ・自分たちの身の回りの環境と関連づけた発言があったときは、無理に否定せず、うなづいて聞きます。

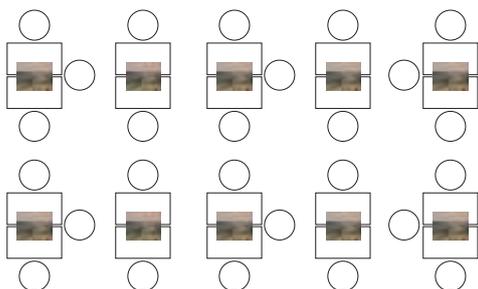
◆関心をもって絵を見ている。
[鑑] 観察

2

ペープサートで絵の中におでかけして、お話をつくろう



2、3人のグループで
お話を考えましょう



- ・絵の中にお出かけして何をしたい？

・教師と子ども（ひとり）であらかじめ作っておいたペープサートを使ってお話をします。



3

みんなのお話 きかせて!

お話発表会、みんなで聞こう

・となり同士でお話をつくりましょう。

- ・ A 3カラーコピーをつかって、2～3人のグループでお話を考えます。
- ・動物や自然といっしょに過ごす気持ちを大切にしましょう。



・レプリカの前でお話の発表会をしましょう。



発表グループ

絵をかこんで座りましょう

- ・あらかじめつくっておいたペープサートの人形を使い、グループ発表をします。
- ・ペープサートは
 - 1 自分
 - 2 ほかの登場人物
 - 3 その他
- ◆思いが伝わるように発表している。[鑑] 観察
- ◆関心をもって聞いている。[鑑] 観察

今日の学習をふりかえって



絵の中にお出かけした感想を話そう

・作品紹介：この作品はフランスの画家、ピサロが描いた「エラニーの牛を追う娘」という絵です。埼玉県立近代美術館にあります。家族で見にいったら、その絵の前で、またお話をしてください。

- ・絵の具のことや自分が描いている絵との違いなど、子どもの感想があればここで受けとめます。
- ・子どもが感じたこと、を肯定的に受けとめることが、より関心をもって作品を見ることにつながります。

対象	中学校	タイプ	準備 ジヴェルニーの積みわら「夕日」レプリカ・ワークシート・埼玉近代美術館ワークシート(2)モネ資料
タイトル	「作品の中へタイムトラベル」		
ねらい	「ジヴェルニーの積みわら、夕日」を鑑賞し、感じたことや気づいたことを話し合ったり、自分が作者になったつもりで情景を紹介することを通して、作品を様々な視点から見たり考えたりしながら、深く味わうことができる。		

1 作品と出会う

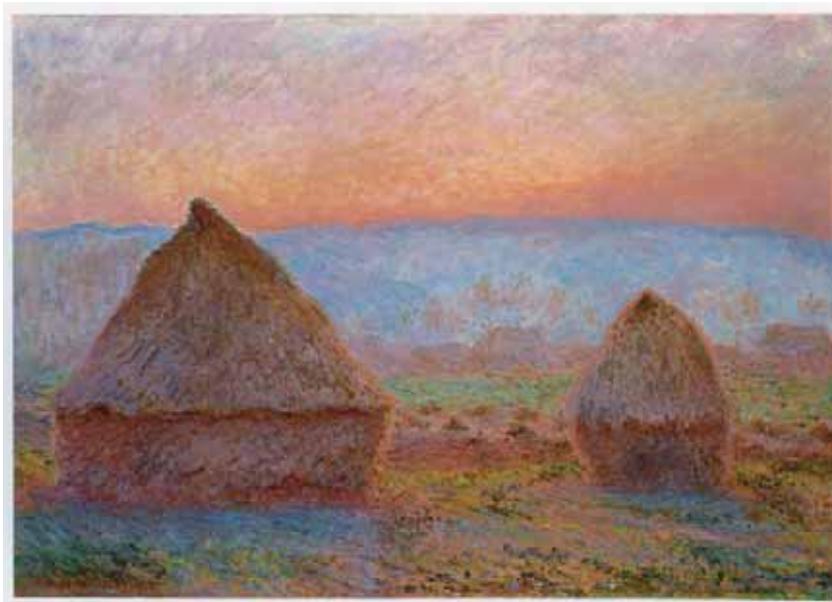


絵のまわりに集まろう！

- ・ なにが描かれているかな？
 - ・ 近づいたり遠くに離れたりしながらよ〜くみてごらん。
-
- ・ 作品鑑賞に集中するため、題名・作者等の情報を与えず、よく見させます。聞かれてもあとで紹介すると伝えます。
 - ・ 作品との出会いを大切にするために作品の見せ方を工夫します。

◆ 関心を持って見ている。
【鑑】 観察

2 何が描かれているのかな？



- ・ 第一印象をワークシートに記入しよう。

-
- ・ 授業の経過とともに自分の感じ方の変化がわかるようにワークシートにまとめます。

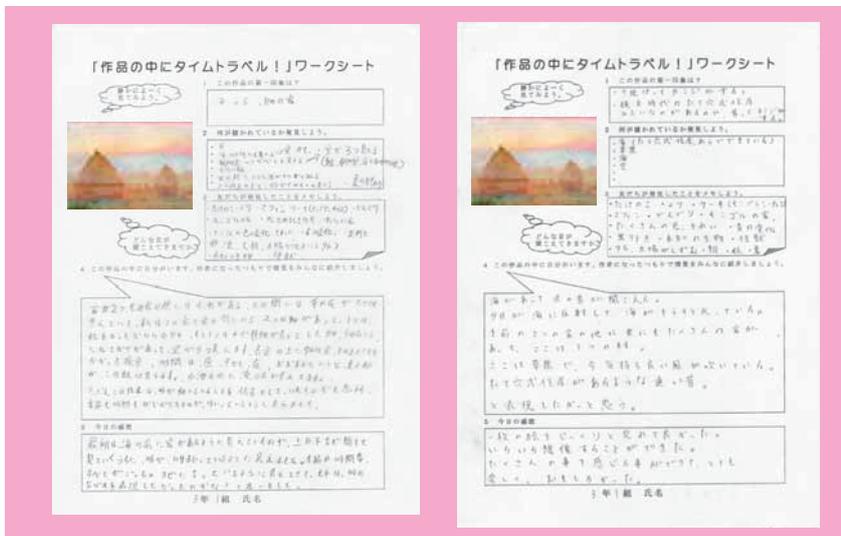
◆ 意欲的に参加している。
【関】 観察

3 感じたことを発表しよう

<発問例>

- ① 「何が描かれていますか？」
- ② 「この絵の季節はいつですか？」
- ③ 「どこをみてそう思いましたか？」
- ④ 「なぜそう思いましたか？」
- ⑤ 「他には何が見えますか？」
- ⑥ 「他にはどうですか？」
- ⑦ 「これは何時頃の絵でしょう？」
- ⑧ 「ここはどんな場所ですか？」
- ⑨ 「なぜそう思いましたか？」
- ⑩ 「何を見てそう思いましたか？」
- ⑪ 「他にはどうですか？」
- ⑫ 「他にはどうですか？」

4 作品の中へタイムトラベル



5 今日の授業を振り返ろう

いろいろな作品の見方があるね。
自分の作品の見方は変わったかな？

6 作者と作品について



- ・第一印象を発表しましょう。
- ・生徒の発言を大切に対話を中心におすすめ。発問が出てこない時には、左記の発問例に従って会話をすすめてみます。

意欲的に参加している。
[関] 発言・観察・ワークシート

- ・この絵の中にいるつもりで情景を紹介しよう。
- ・ワークシートに自分の考えを記入してみんなに紹介しよう。

・互いに発表する中で、様々な感じ方があることを知り、考えを深め合えるようにします。

◆作者の意図に思いをよせることができる。

[鑑] 発言・ワークシート

◆互いの発言を尊重し、良さを認め合うことができる。

[鑑] 観察・ノート

- ・ワークシートに授業の感想をかこう。

・1時間の授業の中で、作品の見方がどのように変わったのか気づかせるようにします。

◆授業を振り返り、感想をまとめることができる。

[関] ワークシート

- ・作者はモネです。モネはこの作品と同じ風景を何枚も描きました。

- ・資料を配布し、作者や作品について理解を深められるようにする。
- ・自分が感じたことを大切に、作品を楽しく味わうことができればよいことをおさえます。

対象	中学校	タイプ	
タイトル	よ〜くみ よう、くらべてみ よう！		準備 ジヴェルニーの積みわら「夕日」レプリカ・関連作品パネル・人物写真・ワークシート
ねらい	「ジヴェルニーの積みわら、夕日」を鑑賞し、作品や作者について興味・関心を持つ 積みわらの連作から作者の表現したかったものについて想像をふくらませる		

1 作品と出会う

→第一印象は？



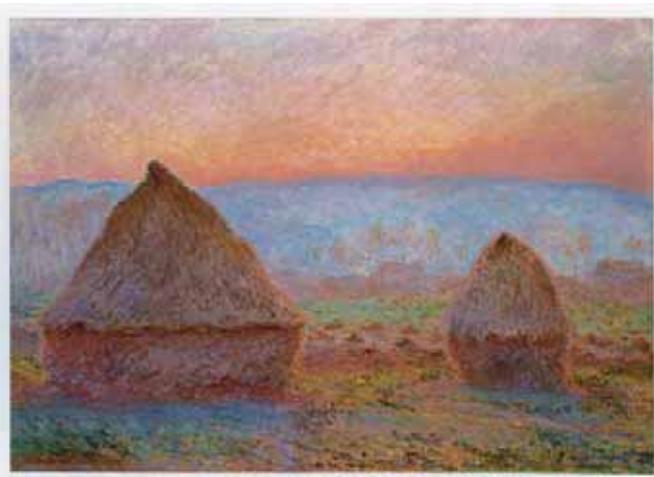
・今日は埼玉県立近代美術館から絵を借りてきました。見たい？

・第一印象は？

- ・ゆっくり布をはずなど、十分に期待を持たせ、作品に集中させます。
- ・作者等の情報はまだふせておきます。
- ・生徒の発言は肯定的に受けとめます。

◆関心を持って見ている。
[関] 発言・観察

2 よ〜く👁️みよう！



・この絵から感じたこと、疑問に思ったことを発表しよう。

・この絵の魅力は何だろう？！

- ・どんなに小さな気づきであっても、思いついたことをどんどん言葉にしてもらいます。
- ・ジャンルわけしながら、意見を黒板に板書します。

◆積極的に意見を言葉にしている。
[関] 発言・観察

3 「ジヴェルニーの積みわら、夕日」について知ろう！

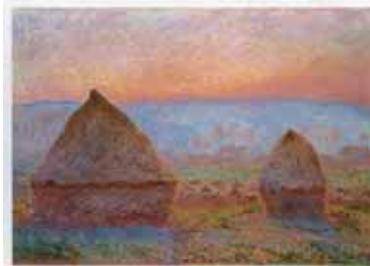


- ・作者は？
- ・題名は？
- ・何が描かれているのか・・・
- ・積みわらとは・・・

- ・モネや積みわらの写真を見せ、簡単に説明をします。
- ・ある程度の知識と価値を示し、興味付けをします。

4

くらべて👁️みよう！



まだまだあるぞ！

「これも、コレも、これも・・・」



・これもモネが描いた積みわらです。

・「ジヴェルニーの積みわら、夕日」と比べてみよう！

・「積みわら」の連作パネルから、季節や光に注目しやすいものを5点ほど選び、順に見せていきます。
・必要に応じて、子どもの意見を板書します。

◆作品を比較しながら見るができる。[鑑] 発言・観察

5

モネの心に迫ろう！

→モネが描きたかったものは？



・自分の考えをワークシートに書いてください。

・連作を比較して見ることで、モネの制作意図、何を追い求めていたかを探ります。
・他の人の意見をきいたり、「ルーアン大聖堂」や「睡蓮」など他の連作を鑑賞し、さらに考えを深めます。

◆作者の意図について探ろうとしている。[鑑] 観察・ノート

まとめ・補足

※生徒との対話の中で話題になった事柄について、授業の最後に少し補足することで、さらに考えが深まり、また、次の鑑賞への広がりも見えてきます。先生の思いなども語りつつ、中学生の知的好奇心を刺激してあげてください。

<光に注目>

・モネは、光を追いかけていたのです。太陽のい位置によって、同じものでも見え方が違いますよね。それを描きたかったのです。しかも、光を表すのに適した表し方も発見していきました。

<色に注目>

・この絵にはなに色が使われているでしょう？この色こそモネの追い求めていた光の色なのです。プリズムを使って光を見ると大気の中にはたくさんの色があることがわかります。モネは画面の隅々までたくさんの色を使って、大気の中の光を色で描こうとしました。

<作者に注目>

・モネは、それまでの絵画の形式にとられない、印象派（印象主義）と呼ばれる絵画の流れを作った人です。「未完成でヘタだ」と非難をあげたこともありましたが、自分の表現を求めて、「睡蓮」などの連作を生涯描き続けました。

対 象	中学校	タイプ (発展型)	
タイトル	色彩への誘い (A)		準 備 ジヴェルニーの積みわら 「夕日」レプリカ・積みわら パズル・クレパスまたはパ ステル関連作品パネル・ 画用紙 (A3)・ワークシート
ねらい	「ジヴェルニーの積みわら、夕日」の鑑賞から色彩や技法に注目し て印象派の特徴を知る。		

1 「色」と出会う



積みわらパズルを観察してみよう

- ・グループに分かれて座りましょう。
 - ・カードの色や模様をじっくりと見てみよう。
 - ・4～6のグループに分かれて座ります。
 - ・グループ内で均等にパズルのピースを配布します。この際、カードの元の絵がわからないようにします。
 - ・このときの生徒の呟きや発言は黒板に書きとめておきましょう。
- ◆関心を持って見ている。
[鑑] 発言・観察

2 パズルであそぶ



積みわらパズルを完成させよう

- ・1枚の絵に仕上げてみよう
 - ・実はこのピースを合わせると1枚の絵になります。
 - ・制限時間は10分。時間がきたら終了しましょう。正解を求めるためのものではないので、「終わっていない」「原画と違う」ものでかまいません。
 - ・お互いのグループの出来具合や姿を見てみるのも関心が高まります。
- ◆意欲的に参加している。
[関] 観察

3 画家に挑戦

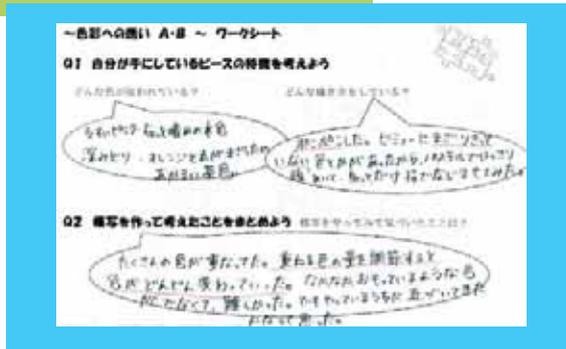
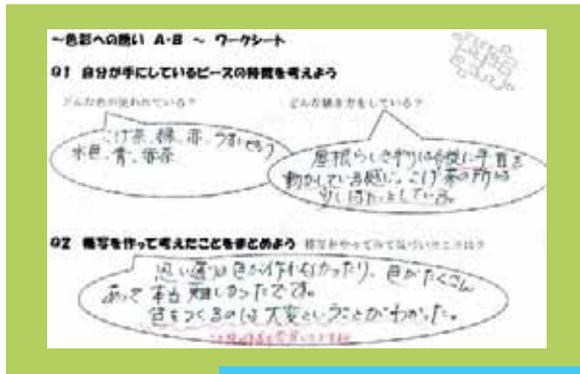


じっくり模写をしてみよう

- ・画用紙に模写をしよう。
 - ・どんな色を組み合わせればいいだろう？
 - ・どう彩色すれば同じようになるか考えてみよう
 - ・出来上がればみんなのカードもパズルになります。
 - ・カードの裏に自分が担当したパズルのNoを記しておきます。
 - ・基本的な色彩の活動としてカードの模写に集中できるようにしましょう。
- ◆パズルをよく観察し色彩の特徴を考える。
[鑑] 観察

4 色彩の謎にせまる

パズルの色の特徴を考えよう



- ・自分が持っているピースの特徴を考えてみよう。
*どんな感じの色?
*どんな筆の使い方?

- ・模写をして考えたことをまとめよう。

- ・色彩に関する特徴や模写を通して気付いたことを書いてもらいましょう。

5 印象派の特徴に気付く

みんなの意見から技法的な特徴を確認しよう

できあがったパズルの例



- ・どうしてこういう色を組み合わせたのだろうか?
- ・どうしてこう筆使いをしたのだろうか?

- ・生徒の気づき、意見をすくい上げ、それが印象派の特徴であることを知らせ、光や色、大気の流れの表現を目指していたことに気付かせましょう

- ◆作品を比較しながら見るができる。

[鑑] 発言・観察

- ◆作者の意図について探ろうとしている。

[鑑] 観察・ノート

対 象	中学校	タイプ (発展型)	準 備 ジヴェルニーの積みわら 「夕日」レプリカ・積みわら パズル・関連作品パネル・ 筆触分割資料・模写カード ・ワークシート
タイトル	色彩への誘い (B)		
ねらい	「ジヴェルニーの積みわら、夕日」を鑑賞して表現の特徴を捉え、 印象派の目指したものを理解する。		

1 作品と出会う



絵の周りに集まって座ろう

- ・今日は美術館からある作品を借りてきました。
 - ・じっくり、静かに見てみよう。
 - ・第一印象をワークシートに書きとめよう。
 - ・作品にはカバーをしておき、作品と出会う心の準備をさせましょう
 - ・静かに観察することで普段より深く作品を見つめることが出来ます
- ◆関心を持って見ている。
[鑑] 発言・観察

2 近くから見つめよう



自分の模写と比べてみよう

- ・自分の模写がどの部分が考えながら鑑賞しよう。
 - ・作品との距離を変えると見え方が変わるよ
 - ・作品や周囲に注意しながら近づくようにしましょう。
 - ・質問が出たら、作家名と「積みわら」が描かれていることは告げても良いでしょう。
- ◆意欲的に参加している。
[関] 観察

3 特徴を確認しよう



色と技法について考えよう

- ・どんな感じの色を使っているだろう？
 - ・どんな筆使いをしているだろう。
 - ・発表のルールを説明します。
どんな小さなことでも気付いたことを発表しよう
人の言葉を最後までよく聞こう。
他の意見を笑ったり、否定したりしない。
 - ・発表したことは黒板にまとめておきます。
- ◆意欲的に発表している。
[関] 発言・観察

4 作者のねらいにせまる

連作の登場



作者のねらいは何だろう

- ・なぜ、このような色づかいや筆使いをしたのでしょうか。
- ・この作品で何を表したかったのでしょうか。

Q4 作者は何を描きにかかったのだろう

自然のすばらしさ
季節によって景色は見え方から変わってくる。
耳と目と見え方が変わる。 空気や光の色も変わる。
そのものの色も変わる。 色によって季節を伝えること

今日の感想（取まらないときは裏面に続けてください）
2時間やりました。絵、わかるのは、すべて奥が深いんだなって思った。絵を見て、
その描き方、考え、何が伝えたいことなのか想像するのが、すごく楽しい。
たぶん、100年くらい前の人が、書いたから、自分が自分も、ちゃんと同じ目線から、
の風景を見ている気がした。空や光を表すと、すごいと思った。すごい絵は、
かもしやうと、思ったり、あんなに、うつくしく、描いたこと、めづる。自分の想像に、
近づいて、いかに、近づけるか。 3年 C組 11番 山本

絵はもっつ時間だ。

・季節は？時間は？どこでそれがわかりますか？

- ・違いと共通点を出させると、これらの作品で作者が描きたかったことを考えやすくなります。
- ・「積みわらが好きだから」という安易な答えだけでなく、そこに作者のねらいや理由があることを考えさせます。
- ・周囲の人たちと相談する時間を設けると、発言が活発化します。
- ・この時も、発言したことを黒板にまとめておきます。

5 印象派の特徴をとらえよう



◆色彩や技法の特徴から作者のねらいを考える。

[鑑] 観察・ワークシート

- ・板書された言葉をキーワードとしながら活用ガイドや資料を利用して、「光の分割・視覚混合・積むらにこめた思い・写真との関わり」などについて補足説明します。
- ・作品名を告げます

◆作者の意図について探ろうとしている。

[鑑] 発言・観察

6 まとめ

・自分の考えをワークシートにまとめよう

◆表現の特徴をとらえ、印象派の目指したものを理解している。

[鑑] 観察・ワークシート

「色彩への誘いA」は「色彩への誘いB」との2限連続のプログラムですが、導入やまとめをアレンジすることによって「色彩への誘いA」のみ、あるいは「色彩への誘いB」のみのプログラムとして実施することもできます。また、「色彩への誘いA」実施後、異校種のプログラムへつなげることが可能です。



スタンダード

「色彩への誘いA」で積みわらパズルや模写の体験により色彩への関心や観察力を高めた後、「色彩への誘いB」の鑑賞へつなげる。

アレンジ1

「色彩への誘いA」のみで独立した、1時間授業とする。積みわらパズルか模写の活動のいずれかを省略し、「まとめ」では「色彩への誘いB」の5で行うような印象派に

アレンジ2

積みわらパズルを配布しピースの色彩を観察した後、「色彩への誘いB」のみで独立した、1時間授業とする。

アレンジ3

「色彩への誘いA」で積みわらパズルや模写の体験により色彩への関心や観察力を高めた後、「よくみてみよう」や「作品の中へタイムスリップ」のプログラムへつなげる。

アレンジ4

「色彩への誘いA」は印象派を色彩の観点から考えるための導入授業として活用できるので、積みわらパズルや模写の体験により色彩への関心や観察力を高めた

対象	高校	50分×2	準備	・ジヴェルニーの積みわら 「夕日」レプリカ ・ワークシート
タイトル	ストーリー・リレー			
ねらい	左右の広がりや奥行きなどを感じ、作品の空間を捉え鑑賞する。 作者の心情を想像しながら自分なりの考察を深めていくことで、より創造的な鑑賞を出来るようにする。			

プログラム構成

生徒の活動

鑑賞

作品に出会う。



作品を見て感じたこと、疑問、発見などをワークシートに記入する。

考察

相互理解をする為、個々で観察したこと又は疑問などを発表。ディスカッションする。

作品のタイトルを考えてみる

制作

作品の左右にどのような風景が続くのか想像しワークシートに記入する

グループワーク

どのような風景か、作者が何を考えていたのかなど、グループで話し合う

制作

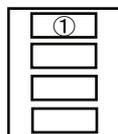
『1人1コマずつ考えて1つの物語になるように皆で物語を作ってみよう!』

グループワーク

制作

1人1コマずつ制作するリレー式で物語を作る。
1グループ=4人の場合は、4作品作ることが出来る。

(1) 作品用紙に のコマを描き込む。
描き終えたら隣に回す。(時計回り)



教師からのアプローチ

近くで又は遠くに離れて自由に鑑賞出来るように促す

ワークシート(表)



ワークシート配布

発言し易いよう、生徒へ問いの投げかけをする

「何か発見はあった?」「この青い部分は何だろう?」

どのようなタイトルを付けたのかを2~3人の生徒に聞く

「作者は何をを考えてこの作品を描いたのか?想像してみよう!」

どうして作者はこの構図を選んだのかなどを考えさせる

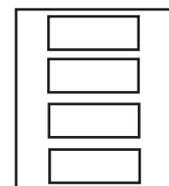
イメージが出易いように、積みわらに関してやフランスの農業についての知識を与える

1グループ、4~5人に分ける

グループ内で意見を共有出来るように促す

作品制作用紙の配布

制作の仕方の説明

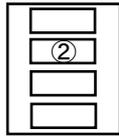


制作するコマの1つ上しか見ないように注意する

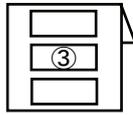
1コマあたり、約3分程度で制作時間を仕切る

生徒の活動

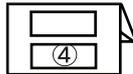
- (2)・コマの続き コマに制作。
描き終わったら、裏側に折り込み
隣に回す。



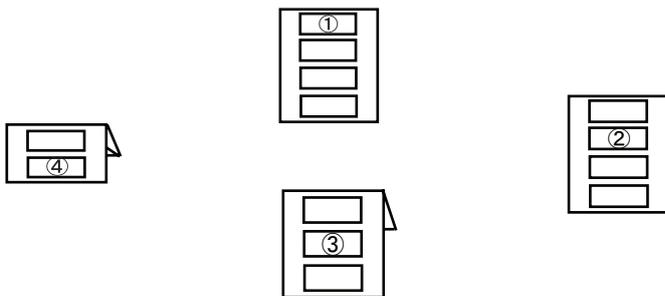
- (3)・回ってきた作品の コマ目だけ
を見て、その続きを コマ目に
制作。
描き終わったら、裏側に折り込み
隣に回す。



- (4)・回ってきた作品の コマ目だけ
を見て、その続きを コマ目に
制作 《完成》

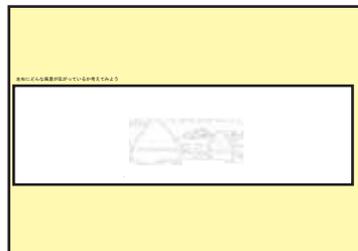


作品を回す順番



鑑賞

グループ内で完成した作品を鑑賞し、
1作品選ぶ。
各グループの代表が作品を発表しク
ラスで鑑賞する。



ワークシート(裏)

まとめ

感想などをワークシートに記入。

教師からのアプローチ

他のグループは作品をどのように
解釈したのかを考えさせる

始めに作品を見て感じたことと
ディスカッションした後での違
いを気付かせる。

活用ガイド

《鑑賞について》

個人鑑賞 作品と向き合い、じっくり鑑賞する。

グループ鑑賞 鑑賞しながらディスカッションし、他の人はどのように感じているのか
相互理解の時間を作る。感じ方の違いを気づかせる。

鑑賞から制作に発展するプログラムではあるが、制作に入ると作業に集中してしまう為、複製画を観察しながら(感じながら)制作する生徒は少ないので、観察・考察にじっくり時間をかけることが重要だと考える。

美術室・デッサン室など広く鑑賞し易い場所であれば特に問題はないが、HR教室で行う場合は作品が見えにくいので、自由に作品の近くまで歩かせたり、机を後ろに下げ空間を作るなどの工夫が必要。

《制作について》

4人以上のグループにする。(3人以下だと自分が描き出した作品の結末を自分自身で制作することになる。4人以上であれば何人でもOK)

制作時間を短くすることで、気持ちを集中させアイデアが出やすい環境にする。コマあたり3分程度が好ましいが、生徒の状態により時間を2~3分延長してもよい。最後の4コマ目は物語の結末を考えなくてはならないので、他のコマより時間に余裕を与え5分程度にすると制作し易い。

作品が完成した時の感動を味わう為、自分が制作する1つ前のコマしか見ないように注意を促す。

ストップウォッチやキッチンタイマーなどを用いて残り時間を知らせると、より集中力が増す。

《作品鑑賞について》

制作後は生徒人数分の作品が出来上がるので、グループの発表終了後に全体の鑑賞の時間を作ってもよい。

授業を行ってみて

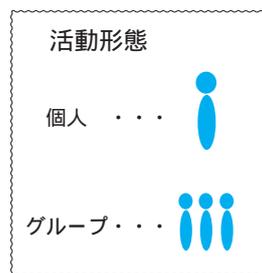
他の校種に比べ高校は知的欲求があるので、モネやフランスの農業についてを説明するだけでなく付属資料を配布するとよい。説明し易いだけでなく、資料の配布がない時に比べ、資料で得た知識を反映させ面白い作品ができていた。

資料には、モネの簡単な年表や積みわらを通して、この時代の農業についてを掲載した。

対 象	高 校	50分×2	準 備	<ul style="list-style-type: none"> ・ジヴェルニーの積みわら「夕日」レプリカ ・ワークシート
タイトル	モネ・コード～印象派の謎を追え！			
ねらい	レプリカから作品のスケールや色彩の美しさを味わう。 知識的背景を加味しながら、自分たちなりの理解で印象派モネの実像に迫っていく。 作成したクイズと回答を通して、他人とディスカッションすることにより、観察力・分析力・考察力・判断力・プレゼンテーション能力など総合的な力を養う。			

プログラム構成

生徒の活動



教師からのアプローチ

・生徒の活動は「個人」と「グループ」であることを伝える。

1

鑑賞



近くから遠くから自由に鑑賞



作品を見て思ったこと・感じたことを自由に書き留める

音楽・照明などで雰囲気演出してもよい
 ・この後、ワークシートで音楽にふれるため。

作者・所蔵美術館・値段などの紹介

ワークシートの配布

2

考察



ワークシートの3択クイズに挑戦！

解答と解説（ 解説資料参照）

・知識、教養を楽しんで獲得させる。

3

制作

『この作品について自由にクイズをつくってみよう！』



書き出した内容をまとめる

クイズ・解答・ヒントの3つをつくる

黒板にクイズとヒントを書き出す

問題作成のポイントを指示

時代背景、制作意図、作者の心情
 表現の工夫、画材、素材について
 自然や生活・日本美術との関連

生徒の活動

教師からのアプローチ

この段階では美術史的な事実がどうであったかはあえて考慮せず、自分たちが創造的に解釈したことを大切にしたい。そして、その先で自ら史実を導き出していくなどの対話を行い、次の展開に結び付けるなどができるが良い。

みんなが考えそうなものや簡単に答えが導けるようなクイズは省き、オリジナルな視点や独自の理論・考察などが含まれるクイズが理想。

各グループが出した問題を解いてみる

- ・みんなで話し合いながら答えを導いてもよい



各自ワークシートに解答を記入

4 プレゼンテーション



グループの代表者が解答を発表

- ・正解とその根拠となる理由を述べる
「この問題の答えは です。その理由は、 が描写されており、そこから ということが読み取れ、それが答えの根拠となりました。」など

5 ディスカッション



解答に対する質問・疑問・反論を発表

- ・ワークシートの答え合わせをしていながら、出題者側と解答者側で作品の幅広い解釈を楽しむ。

6 まとめ



自由に感想を発表（記入）

自由に発表できる雰囲気づくり

解答に対する質問・疑問・反論など自由に発表するよう促す

ディスカッションを深めるための知識の補充

まとめ

このプログラムの実施に当たって

このプログラムでは、印象派やモネに対する教養を深めながらも、自由に解釈して作品鑑賞を楽しむためにつくりました。教師からの一方的な講義より、討論する過程に分析・判断・批判などを含めた対話・問答が入る中で、生徒にとっては作品を理解し感じる効果はアップするでしょう。その過程で『作品を観る事そのものの意味を問う』展開になれば、そこにこのプログラムの面白さがあると思います。生徒には、自分なりのものの見方を獲得し、自分とは異なる価値観を尊重することに大きな意義を見出してほしいと考えています。